

平成18年度事業報告書

〔 平成18年4月 1日から
平成19年3月31日まで 〕

目 次

I. 概 要	1
II. 理 事 会	2
III. 評 議 員 会	4
IV. 主要事業活動	6
1. 次世代人材育成事業	7
(1) 理工系大学院生研究支援事業	
(2) 先進技術者育成セミナー	
2. 日韓自動車関連産業育成強化事業	9
(1) セミナー・商談会・展示会事業	
(a) セミナー・商談会	
(b) 技術者専門セミナー	
(c) 品質管理セミナー	
(2) 産業交流事業	
(a) 地域間交流事業（クラスター交流含む）	
① 産業技術交流促進ミッション	
② 地域間交流支援	
(b) 先進技術交流事業	
(3) 技術普及事業	
3. 調査・広報事業	16
(1) 委託調査	
(a) 各種シンポジウム・研究会	
(b) 日韓 FTA 関連事項	
(c) ソウルジャパンクラブ(SJC)経営研究会支援	
(d) 日韓部品素材分野データベース作成	
(2) 財団ホームページ充実化・パンフレット作成	
V. 日韓両財団「連絡協議会」及び「連絡協議会幹事会」の開催	18
VI. 事務局人事	21
VII. 財団活動日誌抜粋	22

I. 概 要

当財団が設立後、事業を開始して以来 14 年が経過した。これまで日本政府、及び関係経済団体のご協力と日本側企業の多大なご支援により、韓国の中堅・中小企業の経営他多くの分野に於いて事業の成果が上がってきている。この 14 年間で当財団の事業に参加した韓国人、韓国企業数は、研究支援事業、セミナー等では約 4,600 名、産業人の交流事業では 1,050 名、また生産性向上協力事業等を実施した企業は約 380 社を超える。

財団活動に対しては、年を重ねる毎に、改めてその役割が認識され、今後の活動も期待されている。日韓両国政府や、関係者から良い評価を頂き、また事業に参加した韓国企業の社員やセミナーの受講者からも、講師・専門家の助言や、指導内容が大変有益であったと感謝されている。

これまでも度々言われて来たことであるが、韓国経済の下支えとなるべきいわゆる部品・素材産業の成長が未だ十分でない状況下、資本財、部品等の供給の大半を日本や米国に依存せざるを得ない経済環境と産業構造は大きく変わっていない。そのため、対日貿易赤字は依然として減少しておらず、むしろ増加の傾向にあり、引続き韓国の中堅・中小製造業への更なる育成・強化が必要とされている。

平成 18 年度は、基本財産の運用益の外に、政府からの拠出金 2.2 億円（外務省 0.4 億円、経済産業省 1.8 億円）を得て運営並びに事業を実施した。

1. 当年度中、理事会 4 回、評議員会 3 回を開催し、財団運営の重要事項について審議、議決を行った。
2. 平成 17 年度第 3 回理事会で承認された平成 18 年度事業計画に従い下記事業を実施した。

(1) 次世代人材育成事業	2 事業
(2) 日韓自動車関連産業育成強化事業	7 事業
(3) 調査・広報事業	4 事業
3. 日韓両財団の共同事業
 セミナー・商談会、技術者専門セミナー、品質管理セミナー、産業技術交流促進ミッション、先進技術交流事業、技術普及事業、日韓部品素材分野データベース作成の 7 事業を実施した。
4. (1)日韓両財団第 13 回連絡協議会を平成 18 年(2006 年)5 月 26 日札幌にて開催した。
 (2)日韓両財団第 14 回連絡協議会幹事会を平成 18 年(2006 年)6 月 8 日東京にて開催した。
 (3)日韓両財団第 14 回連絡協議会幹事会実務者会議を平成 18 年(2006 年)11 月 8 日ソウルにて開催した。

以上が、平成 18 年度の事業及び諸会議の概要である。

Ⅱ. 理 事 会

今年度は4回の理事会を開催、第1回は瀬戸雄三理事長（アサヒビール株式会社相談役）、第2回は成田洋助専務理事、飯島英胤理事長（東レ株式会社特別顧問）、第3回、第4回は同じく飯島英胤理事長の議長のもとに議題を審議し、表決が必要な事項については、すべて原案どおり異議なく可決承認された。各理事会の概要は以下のとおりである。

1. 平成18年度第1回理事会

平成18年6月20日（火） 午後3時00分～3時30分

当財団会議室

出席者 19名（内訳：理事本人 6名、書面表決 6名、表決委任 7名）

欠席者 5名

〔理事総数 24名〕

〔議 題〕

決議事項

第1号議案 平成17年度事業報告(案)承認の件

第2号議案 平成17年度収支決算報告(案)承認の件

第3号議案 任期満了等に伴う評議員選出承認の件

2. 平成18年度第2回理事会

平成18年6月20日（火） 午後3時45分～4時00分

当財団会議室

出席者 20名（内訳：理事本人 7名、書面表決 7名、表決委任 6名）

欠席者 3名

〔理事総数 23名〕

〔議 題〕

決議事項

第1号議案 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事互選(案)の件

第2号議案 平成18年度収支予算一部修正の件

報告事項

① 新会計基準による平成18年度収支予算書

3. 平成18年度第3回理事会

平成18年11月14日(火) 午前11時25分～11時50分

当財団会議室

出席者 22名 (内訳: 理事本人 4名、書面表決 9名、表決委任 9名)

欠席者 3名

[理事総数 25名]

[議 題]

決議事項

第1号議案 専務理事互選(案)の件

第2号議案 退任専務理事に対し退職慰労金贈呈の件

4. 平成18年度第4回理事会

平成19年3月27日(火) 午後3時30分～4時00分

当財団会議室

出席者 21名 (内訳: 理事本人 5名、書面表決 11名、表決委任 5名)

欠席者 3名

[理事総数 24名]

[議 題]

決議事項

第1号議案 評議員選出承認の件

第2号議案 平成19年度事業計画(案)承認の件

第3号議案 平成19年度収支予算(案)承認の件

以 上

Ⅲ. 評 議 員 会

今年度は3回の評議員会を開催、互選の結果、石田賢評議員（日本サムスン株式会社顧問）が議長となって議題を審議し、表決が必要な事項については、すべて原案どおり異議なく承認された。各評議員会の概要は以下のとおりである。

1. 平成18年度第1回評議員会

平成18年6月20日（火） 午後3時30分～3時45分

当財団会議室

出席者 16名 （内訳：評議員本人 3名、書面表決 5名、表決委任 8名）

欠席者 1名

〔評議員総数 17名〕

〔決議事項〕

第1号議案 任期満了等に伴う理事及び監事選任承認の件

〔審議事項〕

① 平成18年度収支予算一部修正の件

〔報告事項〕

① 平成17年度事業報告

② 平成17年度収支決算報告

③ 新会計基準による平成18年度収支予算書

2. 平成18年度第2回評議員会

平成18年11月14日（火） 午前11時00分～11時25分

当財団会議室

出席者 17名 （内訳：評議員本人 3名、書面表決 9名、表決委任 5名）

欠席者 0名

〔評議員総数 17名〕

〔決議事項〕

第1号議案 理事選任承認の件

3. 平成18年度第3回評議員会

平成19年3月27日（火） 午後3時00分～3時30分

当財団会議室

出席者 14名 (内訳：評議員本人 3名、書面表決 5名、表決委任 6名)

欠席者 3名

[評議員総数 17名]

[決議事項]

第1号議案 監事選任承認の件

[審議事項]

① 平成19年度事業計画(案)の件

② 平成19年度収支予算(案)の件

以上

IV. 主要事業活動

平成18年3月24日の理事会及び評議員会で承認された事業計画に従い下記事業を実施した。(主な事業の詳細は7頁以下参照)

【共同】：韓日財団との共同事業

1. 次世代人材育成事業

- (1) 理工系大学院生研究支援事業
- (2) 先進技術者育成セミナー

2. 日韓自動車関連産業育成強化事業

- (1) セミナー・商談会・展示会事業 【共同】
 - (a) セミナー・商談会
 - (b) 技術者専門セミナー
 - (c) 品質管理セミナー
- (2) 産業交流事業
 - (a) 地域間交流事業 (クラスター交流含む)
 - ① 産業技術交流促進ミッション 【共同】
 - ② 地域間交流支援
 - (b) 先進技術交流事業 【共同】
- (3) 技術普及事業 【共同】

3. 調査・広報事業

- (1) 委託調査
 - (a) 各種シンポジウム・研究会
 - (b) 日韓 FTA 関連事項
 - (c) ソウルジャパンプラブ(SJC)経営研究会支援
 - (d) 日韓部品素材分野データベース作成 【共同】
- (2) 財団ホームページ充実化・パンフレット作成

1. 次世代人材育成事業

事業名	(1) 理工系大学院生研究支援																								
事業内容	<p>韓国の理工系大学院生（博士／修士課程在籍者）を冬休みを利用して約2ヶ月間日本へ招聘し、つくば近辺の各研究機関（独立行政法人）等で専門分野に関する共同研究を行う。</p> <p>(1) 人数：20名 (2) 期間：40日</p> <p>(3) 内容：各研究機関との共同研究</p>																								
実施状況	<p>1. 概要 理工系大学院生20名（内女性11名）が2007年1月9日（火）来日、2月17日（土）帰国するまでの40日間、つくば地区及び東京地区等において、専門分野の共同研究活動を行なう。</p> <p>2. 受入研究機関：</p> <table border="0"> <tr> <td>・建築研究所（茨城県つくば市）</td> <td>1名</td> <td>・物質・材料研究機構（茨城県つくば市）</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>・海洋研究開発機構（神奈川県横浜市）</td> <td>1名</td> <td>・産業技術総合研究所（茨城県つくば市）</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>・日本原子力研究開発機構（茨城県那珂市）</td> <td>1名</td> <td>・産業技術総合研究所（東京都江東区）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>・日本放送協会放送技術研究所 （東京都世田谷区）</td> <td>1名</td> <td>・総務省消防庁消防大学校消防研究センター （東京都調布市）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>・農業環境技術研究所（茨城県つくば市）</td> <td>1名</td> <td>・理化学研究所（埼玉県和光市）</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>・国立環境研究所（茨城県つくば市）</td> <td>5名</td> <td></td> <td>(計) 10機関、20名</td> </tr> </table> <p>3. 特記：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募者（27名）の中から韓国科学財団（KOSEF）にて1次選定22名を日本側に推薦し、日韓財団及びJISTECにて最終選定（各研究機関とのマッチング作業）を行い、参加予定人員20名を仮決定した。その後、KOSEF及び参加本人に最終確認後、参加者20名を最終確定する。 ・事前説明会を10月26日、韓国大田にて開催し、日本研究期間中の諸注意事項に関して説明を行った。 ・ホスト研究所に対して説明会を12月7日、JISTEC つくば市二の宮ハウスで行った。 <p>4. 成果等：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当プログラムは今回で14回目を迎え、日韓の研究交流・友好親善を図る良いプログラムとして定着してきている。このプログラムを契機として、日韓の研究交流が始まり引き続いていたり、更に進んで共同研究契約に繋がって共同シンポジウムを今年つくば市で開催した事例も出ている。 ・今年度を踏まえて、ポス・ドクとして再度来日して研究したい、あるいは受け入れたいというホスト研究所もある。ホスト研究所から、参加研究生は非常に優秀である、まじめである等の好評価を頂いており、また、面倒を見る担当若手研究者に国際研究交流を経験させる、という教育的側面も強く感じており、期末の多忙な時期にもかかわらず、研究生を積極的に受け入れる研究所が増えている。 ・総じて、参加大学院生は日本に対する偏見を修正しており、日本の研究所の研究姿勢や日本社会に学ぶことが多いことを、身をもって感じ好印象を抱いて帰国している。 <p style="text-align: right;">(社)科学技術国際交流センター(JISTEC)に委託</p>	・建築研究所（茨城県つくば市）	1名	・物質・材料研究機構（茨城県つくば市）	2名	・海洋研究開発機構（神奈川県横浜市）	1名	・産業技術総合研究所（茨城県つくば市）	4名	・日本原子力研究開発機構（茨城県那珂市）	1名	・産業技術総合研究所（東京都江東区）	1名	・日本放送協会放送技術研究所 （東京都世田谷区）	1名	・総務省消防庁消防大学校消防研究センター （東京都調布市）	1名	・農業環境技術研究所（茨城県つくば市）	1名	・理化学研究所（埼玉県和光市）	2名	・国立環境研究所（茨城県つくば市）	5名		(計) 10機関、20名
・建築研究所（茨城県つくば市）	1名	・物質・材料研究機構（茨城県つくば市）	2名																						
・海洋研究開発機構（神奈川県横浜市）	1名	・産業技術総合研究所（茨城県つくば市）	4名																						
・日本原子力研究開発機構（茨城県那珂市）	1名	・産業技術総合研究所（東京都江東区）	1名																						
・日本放送協会放送技術研究所 （東京都世田谷区）	1名	・総務省消防庁消防大学校消防研究センター （東京都調布市）	1名																						
・農業環境技術研究所（茨城県つくば市）	1名	・理化学研究所（埼玉県和光市）	2名																						
・国立環境研究所（茨城県つくば市）	5名		(計) 10機関、20名																						

1. 次世代人材育成事業

事業名	(2) 先進技術者育成セミナー
事業内容	<p>韓国企業の中堅技術者に対して、日本企業での効果的な企業実習(別事業)に必要な日本語コミュニケーション能力を向上させるために実施する日本語教育である。</p> <p>(2-(2)-(b) 先進技術交流事業とリンク)</p>
実施状況	<p>1. 期間及び人数</p> <p>(1) 入 国 : 2006年7月24日</p> <p>(2) 日本語教育 : 7月25日～8月23日 (32日間)</p> <p>(3) 参加人員 : 30名</p> <p>2. 実施要領</p> <p>(1) 実施場所 : 宿泊研修施設「リフレフォーラム」(東京都江東区大島)</p> <p>(2) 担当教師 : 青山国際教育学院日本語センターより、常時3名(内1名は韓国語の話せる者)の教師を派遣、合計9名の教師によるローテーション授業</p> <p>(3) クラス編成 : 能力別に3クラス(10名/クラス)</p> <p>(4) 教育時間 : 5日/週(月～土曜日)、午前・午後各3時間、計6時間/日で5週間、合計150時間</p> <p>3. 実施内容</p> <p>(1) 教育成果を上げるために、全員に事前学習プリントを渡し、実施結果を提出させた。</p> <p>(2) 来日後に行った筆記試験とインタビューによるプレースメントテストの結果で、初級1、初級2、中級1の3クラス編成とした。</p> <p>(3) クラス毎にカリキュラムを設定し、視聴覚機器を使用した能力別教育を実施した。</p> <p>(4) 日々の宿題と、習熟度の確認のために定期・最終テストを実施した。</p> <p>(5) 実践会話と日本の生活環境に触れる目的で、課外体験学習を2回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月10日 : 「パナソニックセンター」(東京都江東区有明) および「日本科学未来館」(同 青海)を視察。(一般交通機関利用、教師同行) ・8月25日 : 韓国人留学生および韓国語を勉強している日本人との交流会を実施。(於アジア文化会館) <p>4. 成果他</p> <p>(1) 全員が無事に所定の課程を修了したので、教育機関発行の「修了証書」を授与した。</p> <p>(2) 教育開始時にかなりのレベル差があったため、以下のようにクラス毎に教育成果に違いが出た。(以下の成果は、読む・書く・聞く・話す、4項目についてのテスト結果をポイント評価(10ポイントが満点)し、4項目を総合評価した結果である。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級1クラス : 0.5 → 2.9 (5.8倍の伸び) ・初級2クラス : 3.7 → 5.7 (1.5倍の伸び) ・中級1クラス : 7.3 → 7.8 (1.1倍の伸び) ・3クラス平均 : 3.8 → 5.5 (1.4倍の伸び) <p>(3) 受入企業アンケート調査結果では、71%が「実習が円滑にできた」との回答であった。</p>

２． 日韓自動車関連産業育成強化事業

事業名	(1) セミナー・商談会・展示会事業 (a) セミナー・商談会 【共同事業】																																																																				
事業内容	両国の中小企業の連携による相互補完の関係、「ウィン・ウィン」の関係構築を目的とし、一層の活性化を促す為、日韓両国の財団及び経済協会の共催で第6回 日韓中小企業商談会を東京で、第7回 日韓中小企業セミナー・商談会をソウルで実施した。																																																																				
実施状況	<p>I. 第6回 日韓中小企業商談会の開催概要（訪日、東京）</p> <p>1) 日程・場所：平成18年6月22日(木)、東京品川プリンスホテル 6月21日(水) 13:30～20:00 展示会視察（東京ビッグサイト） 6月22日(木) 10:00～17:30 商談会 6月23日(金) 09:30～11:00 大田区優秀企業工場見学</p> <p>2) 商談会：韓国企業21社、日本企業51社の合計72社の参加があった。合計116件の商談が実施され、3月時点で合計7件の商談が継続中。</p> <p>3) 展示会見学：第10回機械要素技術展他、</p> <p>4) 工場見学：中央鍍金工業協同組合、平和工業、新日東電化協業組合（大田区）</p> <p>II. 第7回 日韓中小企業セミナー・商談会の開催概要（訪韓、ソウル）</p> <p>1) 日程・場所：平成18年10月31日～11月1日、ソウルロッテホテル 10月31日(火) 10:00～17:30 商談会（日本企業22社が訪韓） 11月1日(水) 13:30～17:00 セミナー（3テーマ）</p> <p>2) 商談会：本商談会には日本企業22社、韓国企業58社の合計80社の参加があった。合計で109件の商談が実施され、3月時点で成約5件、38件の商談が継続中。</p>																																																																				
	<p style="text-align: center;">表 日本側参加企業の一覧</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">企業名</th> <th style="text-align: center;">事業概要・品目</th> <th style="text-align: center;">従業員(名)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>藤倉ゴム工業(株)</td><td>工業用ゴム製品、制御機器、電気材料ゴム製品</td><td style="text-align: right;">902</td></tr> <tr><td>筒中金属産業(株)</td><td>アルミニウム圧延品及びスラブ、伸銅品、ニッケル</td><td style="text-align: right;">40</td></tr> <tr><td>小津産業(株)</td><td>不織布製品、洋紙、板紙、産業用紙、和紙</td><td style="text-align: right;">130</td></tr> <tr><td>神陽金属工業(株)</td><td>キューブ ロニッケル、アルミプラス、銅管用管継手、フランジ</td><td style="text-align: right;">22</td></tr> <tr><td>(株) アンテック</td><td>窯焚支援装置、自動焼成装置、炎検出センサー</td><td style="text-align: right;">5</td></tr> <tr><td>(株) コスシステム</td><td>画像処理用LED照明、対応電源</td><td style="text-align: right;">15</td></tr> <tr><td>日本イオン(株)</td><td>銀イオン殺菌装置、銅イオン殺菌装置</td><td style="text-align: right;">10</td></tr> <tr><td>(株) ボゴ・ティーエヌシー</td><td>電子部品販売</td><td style="text-align: right;">5</td></tr> <tr><td>(株) A I S</td><td>ソフトウェア開発・販売</td><td style="text-align: right;">52</td></tr> <tr><td>(株) 五光物産</td><td>厨房排水処理機、全自動床面洗浄装置</td><td style="text-align: right;">18</td></tr> <tr><td>N A P A C (株)</td><td>含油軸受、焼結機械部品、希土類ボンド磁石</td><td style="text-align: right;">82</td></tr> <tr><td>日本ガーター(株)</td><td>電子部品梱包材、自動テーピング機、自動選別機</td><td style="text-align: right;">150</td></tr> <tr><td>(株) 竹村製作所</td><td>不凍給水栓・水抜栓、水道メータ着脱装置</td><td style="text-align: right;">220</td></tr> <tr><td>(株) Hyperweb</td><td>半導体製造装置部品、LCD製造装置部品</td><td style="text-align: right;">8</td></tr> <tr><td>兼松(株)</td><td>IT機器、ソフトウェア、二輪・自動車部品、工作機器</td><td style="text-align: right;">4449</td></tr> <tr><td>(株) オオイ</td><td>IC製造工程試験装置関連機器、各種洗浄機</td><td style="text-align: right;">60</td></tr> <tr><td>太平洋エンジニアリング(株)</td><td>セメント関連プラント、環境関連プラント</td><td style="text-align: right;">164</td></tr> <tr><td>(株) ACCA Networks</td><td>ADSL及び光回線提供、NWトータルソリューション</td><td style="text-align: right;">800</td></tr> <tr><td>(株) 大成</td><td>アルミ厚板切断、4面・6面フライス、機械加工</td><td style="text-align: right;">30</td></tr> <tr><td>WEBMAX(株)</td><td>CMS、ウェブアプリ開発、GISエンジン開発、ECソリューション</td><td style="text-align: right;">22</td></tr> <tr><td>PROSYSTA(株)</td><td>SNS、EC等パッケージシステム、WEBシステムソリューション</td><td style="text-align: right;">4</td></tr> <tr><td>(有) mode-Duo</td><td>SNS開発、音楽配信サイト、Webソリューション</td><td style="text-align: right;">5</td></tr> </tbody> </table> <p>3) セミナー：韓国一般企業133名、関係機関17名の合計150名が参加した。 テーマ・講師は以下のごとく。 基調講演 「東レの軌跡：経営革新と人材育成」：東レ(株) 特別顧問 飯島英胤氏 事例講演(I) 「中小企業・ベンチャー企業の生存戦略」：東成エレクトロニクス(株) 代表取締役社長 上野保氏 事例講演(II) 「多品種微量生産のモノづくり・人づくり」：鍋屋ハテック会社 常務取締役 佐藤雅英氏</p> <p style="text-align: right;">事務局業務を三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)に委託</p>	企業名	事業概要・品目	従業員(名)	藤倉ゴム工業(株)	工業用ゴム製品、制御機器、電気材料ゴム製品	902	筒中金属産業(株)	アルミニウム圧延品及びスラブ、伸銅品、ニッケル	40	小津産業(株)	不織布製品、洋紙、板紙、産業用紙、和紙	130	神陽金属工業(株)	キューブ ロニッケル、アルミプラス、銅管用管継手、フランジ	22	(株) アンテック	窯焚支援装置、自動焼成装置、炎検出センサー	5	(株) コスシステム	画像処理用LED照明、対応電源	15	日本イオン(株)	銀イオン殺菌装置、銅イオン殺菌装置	10	(株) ボゴ・ティーエヌシー	電子部品販売	5	(株) A I S	ソフトウェア開発・販売	52	(株) 五光物産	厨房排水処理機、全自動床面洗浄装置	18	N A P A C (株)	含油軸受、焼結機械部品、希土類ボンド磁石	82	日本ガーター(株)	電子部品梱包材、自動テーピング機、自動選別機	150	(株) 竹村製作所	不凍給水栓・水抜栓、水道メータ着脱装置	220	(株) Hyperweb	半導体製造装置部品、LCD製造装置部品	8	兼松(株)	IT機器、ソフトウェア、二輪・自動車部品、工作機器	4449	(株) オオイ	IC製造工程試験装置関連機器、各種洗浄機	60	太平洋エンジニアリング(株)	セメント関連プラント、環境関連プラント	164	(株) ACCA Networks	ADSL及び光回線提供、NWトータルソリューション	800	(株) 大成	アルミ厚板切断、4面・6面フライス、機械加工	30	WEBMAX(株)	CMS、ウェブアプリ開発、GISエンジン開発、ECソリューション	22	PROSYSTA(株)	SNS、EC等パッケージシステム、WEBシステムソリューション	4	(有) mode-Duo	SNS開発、音楽配信サイト、Webソリューション
企業名	事業概要・品目	従業員(名)																																																																			
藤倉ゴム工業(株)	工業用ゴム製品、制御機器、電気材料ゴム製品	902																																																																			
筒中金属産業(株)	アルミニウム圧延品及びスラブ、伸銅品、ニッケル	40																																																																			
小津産業(株)	不織布製品、洋紙、板紙、産業用紙、和紙	130																																																																			
神陽金属工業(株)	キューブ ロニッケル、アルミプラス、銅管用管継手、フランジ	22																																																																			
(株) アンテック	窯焚支援装置、自動焼成装置、炎検出センサー	5																																																																			
(株) コスシステム	画像処理用LED照明、対応電源	15																																																																			
日本イオン(株)	銀イオン殺菌装置、銅イオン殺菌装置	10																																																																			
(株) ボゴ・ティーエヌシー	電子部品販売	5																																																																			
(株) A I S	ソフトウェア開発・販売	52																																																																			
(株) 五光物産	厨房排水処理機、全自動床面洗浄装置	18																																																																			
N A P A C (株)	含油軸受、焼結機械部品、希土類ボンド磁石	82																																																																			
日本ガーター(株)	電子部品梱包材、自動テーピング機、自動選別機	150																																																																			
(株) 竹村製作所	不凍給水栓・水抜栓、水道メータ着脱装置	220																																																																			
(株) Hyperweb	半導体製造装置部品、LCD製造装置部品	8																																																																			
兼松(株)	IT機器、ソフトウェア、二輪・自動車部品、工作機器	4449																																																																			
(株) オオイ	IC製造工程試験装置関連機器、各種洗浄機	60																																																																			
太平洋エンジニアリング(株)	セメント関連プラント、環境関連プラント	164																																																																			
(株) ACCA Networks	ADSL及び光回線提供、NWトータルソリューション	800																																																																			
(株) 大成	アルミ厚板切断、4面・6面フライス、機械加工	30																																																																			
WEBMAX(株)	CMS、ウェブアプリ開発、GISエンジン開発、ECソリューション	22																																																																			
PROSYSTA(株)	SNS、EC等パッケージシステム、WEBシステムソリューション	4																																																																			
(有) mode-Duo	SNS開発、音楽配信サイト、Webソリューション	5																																																																			

２．日韓自動車関連産業育成強化事業

事業名	(1) セミナー・商談会・展示会事業 (b) 技術者専門セミナー 【共同事業】															
事業内容	韓国中堅・中小企業の中堅技術者を対象に、現場の実務と管理に必要なセミナーを実施。 (1) 対象：中堅・中小企業の中堅技術者32名(4コース、各コース8名) (2) 期間：42日 (3) 内容：講義／実習／工場見学 成果発表会(11月・韓国)															
実施状況	<p>1. 概要</p> 人数：30名 期間：2006年7月30日 来日～9月9日 帰国(42日間) コース：①金属加工と品質向上技術 ②技術者のための生産性向上技術 ③中小企業管理者マネジメント基礎 ④生産性向上のための設備有効活用技術の4コース <p>2. 内容</p> 各コースとも、講義／実習／工場見学、及び、1泊2日程度の企業視察旅行を実施。工場見学は九州一円の手企業中心に、セミナーテーマに関する企業、研究機関、自治体施設など。															
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">コース名称／人員</th> <th style="width: 40%;">講義／実習項目</th> <th style="width: 27%;">受入機関企業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①金属加工と品質向上の技術 8名</td> <td>金属加工技術(casting, 接合, プレス, 鍛造, 切削, トライボロジーなど) 金属材料の性質、強度、種類と用途</td> <td>11社</td> </tr> <tr> <td>②技術者のための生産性向上技術 7名</td> <td>管理技術(IE, VE, TPM, QC, JITとセル生産方式, 5S, シーケンス制御など)</td> <td>22社</td> </tr> <tr> <td>③中小企業管理者マネジメント基礎 8名</td> <td>JITとセル生産, 生産性と生産管理, QA, 5Sと職場改善, 人材育成, 現場のマネジメント</td> <td>24社</td> </tr> <tr> <td>④生産性向上のための設備有効活用技術 7名</td> <td>設備生産性向上の改善技法と管理技法, 設備診断技術(CDT), 金属の疲労と破壊力学, シーケンス制御, 新しい生産システムと技術者倫理など</td> <td>15社</td> </tr> </tbody> </table>	コース名称／人員	講義／実習項目	受入機関企業	①金属加工と品質向上の技術 8名	金属加工技術(casting, 接合, プレス, 鍛造, 切削, トライボロジーなど) 金属材料の性質、強度、種類と用途	11社	②技術者のための生産性向上技術 7名	管理技術(IE, VE, TPM, QC, JITとセル生産方式, 5S, シーケンス制御など)	22社	③中小企業管理者マネジメント基礎 8名	JITとセル生産, 生産性と生産管理, QA, 5Sと職場改善, 人材育成, 現場のマネジメント	24社	④生産性向上のための設備有効活用技術 7名	設備生産性向上の改善技法と管理技法, 設備診断技術(CDT), 金属の疲労と破壊力学, シーケンス制御, 新しい生産システムと技術者倫理など	15社
	コース名称／人員	講義／実習項目	受入機関企業													
	①金属加工と品質向上の技術 8名	金属加工技術(casting, 接合, プレス, 鍛造, 切削, トライボロジーなど) 金属材料の性質、強度、種類と用途	11社													
	②技術者のための生産性向上技術 7名	管理技術(IE, VE, TPM, QC, JITとセル生産方式, 5S, シーケンス制御など)	22社													
③中小企業管理者マネジメント基礎 8名	JITとセル生産, 生産性と生産管理, QA, 5Sと職場改善, 人材育成, 現場のマネジメント	24社														
④生産性向上のための設備有効活用技術 7名	設備生産性向上の改善技法と管理技法, 設備診断技術(CDT), 金属の疲労と破壊力学, シーケンス制御, 新しい生産システムと技術者倫理など	15社														
<p>3. 成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナーコースは4コース8名程度として、30名で実施した。各コース参加人数に多少バラツキがでたが、参加者全員がセミナーを終了した。また成果発表会は11月に韓国中小企業振興公団の研修院を借りて、フォローアップもかねて実施した。今後も継続して実施していく。韓国側のニーズを把握し、なお一層のセミナー内容の充実を図っていく。 ・非常にタイトな日程であったが、各技術分野の権威者である講師及び指導員諸氏の熱意に溢れたご指導と、セミナー参加者の真摯な努力によって、高い成果が得られた。 <p style="text-align: right;">(財)北九州国際技術協力協会(KITA)に業務委託</p>																

２．日韓自動車関連産業育成強化事業

事業名	(1) セミナー・商談会・展示会事業 (c) 品質管理セミナー 【共同事業】
事業内容	韓国中堅・中小企業の中堅技術者を受入れ、品質管理に関するセミナーを実施。 (1) 対象：中堅・中小企業の中堅技術者 30名 (2) 期間：2週間 (3) 内容：座学とグループディスカッションを主体に基礎から実際編迄体系付けたセミナーを実施 ①日本のTQM ③原価管理、方針管理、日常管理、コストダウン演習 ②IE、QFD、品質保証、ISO9000 ④グループディスカッション等
実施状況	1. 期間・場所 2006年6月25日(日)来日、7月8日(土)帰国する迄の2週間、大磯プリンスホテル(神奈川県中郡大磯町)において実施。 2. 参加者(最終参加者 30名 内 女性 2名) 中堅・中小企業の品質管理・生産管理担当次長・課長クラス(年齢 29～46歳) 3. セミナー内容 (1) セミナー科目： 日本のTQM、機能別管理・受注生産における現場管理、IEの活用/演習、職場の管理と改善、新QC七つ道具、生産の品質保証、工場における現場管理/演習、管理と改善、日常管理、方針管理、原価管理/コストダウン演習、ISO 9000、品質保証とPL、新製品開発のためのQFD/演習他 また、講義内容をより理解するために、夕刻の時間を利用したグループディスカッション及び各種演習を実施(計8回) (2) 工場見学：①(株)三和電機製作所(大田区・中小企業における改善活動) ②(株)アルバック(神奈川・受注生産における品質管理) 4. 特記事項 ・主任講師は例年通り日本科学技術連盟嘱託の高須久先生に委嘱した。日程の作成からご指導を得、また昨年度の評価度を参考にしながら準備を進め、講義と見学のバランスが取れたカリキュラムを作成し、昨年以上のものを準備することが出来た。 ・期間が2週間と短期間であるため、夕刻に演習とグループディスカッションの時間を大幅に増やし、自らが主体となって体験できる内容とした。 ・通訳は韓日財団嘱託の李在熙氏に依頼した。3回目の品質管理セミナー通訳であり、セミナーだけに止まらず、日常の生活活動での相談指導を行い、熱心な業務姿勢には参加者から大変信頼されていた。 5. 成果概要等 参加者からは、「さまざまな品質管理に必要な基礎的知識を学ぶことができ、帰って会社に当て嵌める足場造りが出来た。今後、このようなセミナーがあればチームメンバーを必ず参加させる。全般的に知らなかった所もあったが、参加者のみんなが熱心に学んだので、今後とも分からない所はお互い連絡を取りあって、確かめることが出来るので良いセミナーになりました。」等の言葉を多く頂いている。 <div style="text-align: right;">(株)イズワークスに委託</div>

2. 日韓自動車関連産業育成強化事業

事業名	(2) 産業交流事業 (a) 地域間交流事業 (クラスター交流含む) ①産業技術交流促進ミッション 【共同事業】													
事業内容	韓国中堅・中小企業の経営者29名を日本に招聘し、日本の中堅・中小企業の工場見学を中心に産業技術交流を実施。 (1) 対象：韓国中堅・中小企業の経営者クラス 29名 (2) 期間：4泊5日 (3) 内容：①工場見学 (機械系と電機系のグループ別及び合同にて7工場・2施設を見学) ②日韓中堅・中小企業経営者交流会、③展示会见学、④セミナー 等													
実施状況	2006年度 (第20回)													
	期間 (来日～帰国)	06年11月27日 (月)～12月1日 (金)												
	場所	東京都大田区/品川区、神奈川県/横浜市/川崎市												
	ミッションメンバー	29名												
	協力	韓国貿易協会東京支部・韓国中小企業振興公団日本事務所・財団法人大田区産業振興協会・神奈川県異業種グループ連絡会日韓ビジネス協議会												
	内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;">工場見学</td> <td style="vertical-align: top;"> 機械・自動車グループ ・(有)大徳産業：合同見学 ・(株)マテリアル：合同見学 ・小松波ね工業(株) ・(株)北嶋絞製作所 ・(株)セプト・ワン ・大田区産業プラザ：合同見学 </td> <td style="width: 30%; vertical-align: top;">電気・電子グループ ・(有)大徳産業：合同見学 ・(株)マテリアル：合同見学 ・(株)勝亦電機製作所 ・(株)日放電子 ・(財)神奈川科学技術アカデミー高度計測センター ・大田区産業プラザ：合同見学 </td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">展示会见学</td> <td colspan="2" style="vertical-align: top;"> ・「中小企業総合展 in 東京」(東京ビックサイト)見学 講演会聴取と展示会见学と日本企業ブースでの商談 テーマ：「強い会社のつくりかた」 講師 (株)産業再生機構 代表取締役 富山和彦 氏 テーマ：「強い会社のつくりかた」 講師 (株)ロダン21 代表取締役 品川隆幸 氏 谷口工業(株) 代表取締役 谷口彰良 氏 (株)テサキ製作所 代表取締役 手崎貴之 氏 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">セミナー</td> <td colspan="2" style="vertical-align: top;"> ・韓国貿易協会東京支部 支部長 金 在淑 氏 日韓両国経済関係の課題、特に団塊世代について日韓を比較しながら、貿易観点からの日本経済、日本社会について講演。 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">日韓中小企業交流会</td> <td colspan="2" style="vertical-align: top;"> 神奈川県日韓ビジネス協議会のメンバーとの交流会 メンバー14名と3グループに分かれて実施 </td> </tr> </table>	工場見学	機械・自動車グループ ・(有)大徳産業：合同見学 ・(株)マテリアル：合同見学 ・小松波ね工業(株) ・(株)北嶋絞製作所 ・(株)セプト・ワン ・大田区産業プラザ：合同見学	電気・電子グループ ・(有)大徳産業：合同見学 ・(株)マテリアル：合同見学 ・(株)勝亦電機製作所 ・(株)日放電子 ・(財)神奈川科学技術アカデミー高度計測センター ・大田区産業プラザ：合同見学		展示会见学	・「中小企業総合展 in 東京」(東京ビックサイト)見学 講演会聴取と展示会见学と日本企業ブースでの商談 テーマ：「強い会社のつくりかた」 講師 (株)産業再生機構 代表取締役 富山和彦 氏 テーマ：「強い会社のつくりかた」 講師 (株)ロダン21 代表取締役 品川隆幸 氏 谷口工業(株) 代表取締役 谷口彰良 氏 (株)テサキ製作所 代表取締役 手崎貴之 氏		セミナー	・韓国貿易協会東京支部 支部長 金 在淑 氏 日韓両国経済関係の課題、特に団塊世代について日韓を比較しながら、貿易観点からの日本経済、日本社会について講演。		日韓中小企業交流会	神奈川県日韓ビジネス協議会のメンバーとの交流会 メンバー14名と3グループに分かれて実施
工場見学	機械・自動車グループ ・(有)大徳産業：合同見学 ・(株)マテリアル：合同見学 ・小松波ね工業(株) ・(株)北嶋絞製作所 ・(株)セプト・ワン ・大田区産業プラザ：合同見学	電気・電子グループ ・(有)大徳産業：合同見学 ・(株)マテリアル：合同見学 ・(株)勝亦電機製作所 ・(株)日放電子 ・(財)神奈川科学技術アカデミー高度計測センター ・大田区産業プラザ：合同見学												
展示会见学	・「中小企業総合展 in 東京」(東京ビックサイト)見学 講演会聴取と展示会见学と日本企業ブースでの商談 テーマ：「強い会社のつくりかた」 講師 (株)産業再生機構 代表取締役 富山和彦 氏 テーマ：「強い会社のつくりかた」 講師 (株)ロダン21 代表取締役 品川隆幸 氏 谷口工業(株) 代表取締役 谷口彰良 氏 (株)テサキ製作所 代表取締役 手崎貴之 氏													
セミナー	・韓国貿易協会東京支部 支部長 金 在淑 氏 日韓両国経済関係の課題、特に団塊世代について日韓を比較しながら、貿易観点からの日本経済、日本社会について講演。													
日韓中小企業交流会	神奈川県日韓ビジネス協議会のメンバーとの交流会 メンバー14名と3グループに分かれて実施													
成果概要等 日韓地域間交流促進という両国政府方針に沿って、今回は展示会「中小企業総合展 in 東京」に時期を合わせ、東京都南部、神奈川県の間関の協力もいただき実施し、参加企業経営幹部から高い評価を得ることが出来た。特に日本側との交流会、韓国貿易協会金支部長の講演、工場見学先の経営方針実績の説明では大きな感銘を与えることができた。本ミッションは、日韓友好促進と日韓地域間交流促進に非常に役立っている。 <div style="text-align: right;">(株)イズワークスに委託</div>														

2. 日韓自動車関連産業育成強化事業

事業名	<p>(2) 産業交流事業 (a) 地域間交流事業 (クラスター交流含む) ②地域間交流支援</p> <p>I. 九州・韓国経済交流会議関連事業支援 II. 北陸・韓国経済交流会議関連事業支援 III. 近畿・韓国コンテンツ産業交流事業支援 IV. 石川県・韓国 IT・コンテンツビジネス交流事業支援</p>
事業内容	<p>日韓両国地域間の貿易、投資及び産業技術分野における協力の促進と地域間経済交流の拡大を目的に実施。当財団は以下実施状況に示す事業に参加するとともに、事業経費の一部を支援。</p> <p>I. 「九州・韓国経済交流会議」は、両国政府、地方自治体、民間団体を中心に、1993年度より定期的に開催。</p> <p>II. 「北陸・韓国経済交流会議」は、両国政府、地方自治体、民間団体を中心に、2000年度より定期的に開催。</p> <p>III. 「近畿・韓国コンテンツ産業交流事業」は、京都府、映像関連企業、大学を中心に、2006年度より韓国の映像コンテンツ分野の政府機関及び企業との交流を開始。</p> <p>IV. 「石川県・韓国 IT・コンテンツビジネス交流事業」は、石川県、(財)石川県産業創出支援機構を中心に、2003年度より大邱広域市及び(財)大邱デジタル産業振興院との交流を実施。</p>
実施状況	<p>I. <u>九州・韓国経済交流会議関連事業</u> ・第13回九州・韓国経済交流会議 (参加者 約150名) (1) 実施期間 : 2006年7月11日～7月13日 (2) 実施場所 : 佐賀市 ホテルニューオータニ佐賀 (3) 主要行事 : ・九州・韓国経済交流会議 ・デジタルコンテンツ/IT ビジネスフォーラム (講演、両国企業プレゼンテーション、韓国投資環境説明)</p> <p>II. <u>北陸・韓国経済交流会議関連事業</u> ・第6回北陸・韓国経済交流会議 (参加者 約200名) (1) 実施期間 : 2006年10月18日～10月21日 (2) 実施場所 : 福井市 福井ワシントンホテル、福井県産業会館他 (3) 主要行事 : ・官民合同会議 ・韓国企業プレゼンテーション、商談会、ブース出展 ・産業施設・企業視察、北陸技術交流テクノフェア視察</p> <p>III. <u>近畿・韓国コンテンツ産業交流事業</u> ・日韓コンテンツ産業交流ミッション (日本側参加者 20名) (1) 実施期間 : 2006年8月30日～9月2日 (2) 実施場所 : ソウル特別市 (3) 主要行事 : ・韓国ゲーム産業開発院、韓国文化コンテンツ振興院、映画振興委員会、ソウル総合撮影所、ソウル総合芸術大学、韓国放送他視察及び意見交換会</p> <p>IV. <u>石川県・韓国IT・コンテンツビジネス交流事業</u> (1) ビジネス商談会 in 石川 (参加者 約30名) (1) 実施期間 : 2006年5月17日～5月19日 (2) 実施場所 : 金沢市 金沢マンテンホテル、県産業展示館他 (3) 主要行事 : ・韓国 IT 最新事情セミナー、日韓 IT 企業トークセッション ・韓国企業プレゼンテーション及び企業交流会、商談会 ・北陸先端科学技術大学院大学、北陸 IT 活性化センター他視察</p> <p>(2) ビジネス商談会 in 大邱 (参加者 約30名) (1) 実施期間 : 2006年11月27日～12月1日 (2) 実施場所 : ソウル特別市、大邱広域市 (3) 主要行事 : ・大邱広域市訪問、(財)大邱デジタル産業振興院訪問・交流会 ・日本企業プレゼンテーション及び商談会、企業視察他</p>

2. 日韓自動車関連産業育成強化事業

事業名	(2) 産業交流事業 (b) 先進技術交流事業 【共同事業】																																																															
事業内容	韓国企業の中堅技術者を日本に招聘し、国内の日本企業において、技術・経営上の課題の解決を目的とした企業実習を実施。 (1-(2) 先進技術者育成セミナーにリンク)																																																															
実施状況	<p>1. 期間及び人数</p> <p>(1) 入 国： 2006年7月24日 (入国後1ヶ月間は、別事業で日本語教育)</p> <p>(2) 企業実習： 8月28日(受入企業へ移動)～11月11日(帰国) (79日間) (この間、10月4日～9日(6日間)に一時帰国を実施)</p> <p>(3) 参加人員： 30名</p> <p>2. 内容</p> <p>(1) 派遣企業、受入企業及び中堅技術者の、それぞれにメリットが出るような実習テーマと推進方法を計画し、企業実習を行った。</p> <p>(2) 10月12日～13日に、関東、関西地区の受入企業計4社を訪問し、実習状況・改善点などについて意見交換を行った。</p> <p>(3) 11月10日、受入企業関係者の出席のもとで、実習状況・成果についての報告会を行った。</p> <p>3. 技術者派遣韓国企業(30社)及び受入日本企業(26社)</p>																																																															
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜派遣企業＞</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜受入企業＞</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜派遣企業＞</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜受入企業＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) (株) 瑞進CAM</td> <td>(株) 日平トヤマ</td> <td>(16) 韓国横河電機(株)</td> <td>横河電機(株)</td> </tr> <tr> <td>(2) (株) KPF</td> <td>(株) 水野鉄工所</td> <td>(17) 又永産業(株)</td> <td>片山工業(株)</td> </tr> <tr> <td>(3) 韓国大塚製薬(株)</td> <td>大塚製薬(株) 佐賀工場</td> <td>(18) (株)PULMUONE 第三豆腐工場</td> <td>朝日食品工業(株)</td> </tr> <tr> <td>(4) 眞永工業(株)</td> <td>片山工業(株)</td> <td>(19) 韓一金属工業(株)</td> <td>(株) 川邑研究所</td> </tr> <tr> <td>(5) (株) 宇進ALPHA</td> <td>(株) アルファ</td> <td>(20) (株) 宇進機電</td> <td>(株) 東芝</td> </tr> <tr> <td>(6) (株) 東亜Entec</td> <td>三菱重工業(株)</td> <td>(21) (株) 東亜ENG</td> <td>和光技研工業(株)</td> </tr> <tr> <td>(7) (株) 宇進産電</td> <td>(株) 東芝</td> <td>(22) 韓国教育放送公社</td> <td>(株) 東通</td> </tr> <tr> <td>(8) 韓国大塚製薬(株)</td> <td>大塚製薬(株) 徳島工場</td> <td>(23) SEOUL 東光(株)</td> <td>東光(株)</td> </tr> <tr> <td>(9) Hitachi High Technologies Korea</td> <td>(株) 日立ハイテクノロジーズ</td> <td>(24) 又永産業(株)</td> <td>片山工業(株)</td> </tr> <tr> <td>(10) 江南化成(株)</td> <td>大日本化学工業(株) 堺</td> <td>(25) (株) 協星社</td> <td>マカテック・ボドロー(株)</td> </tr> <tr> <td>(11) (株)PULMUONE 第二豆腐工場</td> <td>朝日食品工業(株)</td> <td>(26) 韓国ALPS(株)</td> <td>アルプス電気(株)</td> </tr> <tr> <td>(12) 愛敬化学(株)</td> <td>大日本化学工業(株) 千葉</td> <td>(27) 韓国OMRON電装(株)</td> <td>オムロン飯田(株)</td> </tr> <tr> <td>(13) Pulmuone Sprout(株)</td> <td>サイキ食品(株)</td> <td>(28) 東明重工業(株)</td> <td>ナプテスコ(株)</td> </tr> <tr> <td>(14) 大同HI-LEX(株)</td> <td>(株) ハレックスポーション</td> <td>(29) KODUCT(株)</td> <td>武田産業(株)</td> </tr> <tr> <td>(15) METROTECH(株)</td> <td>(株) 神戸製鋼所</td> <td>(30) アールエスコリア(株)</td> <td>リンナイ精機(株)</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 成果他</p> <p>(1) 日本語教育期間を含め、全員が無事に所定の課程を修了した。</p> <p>(2) 実習で学んだ、業務マニュアルの整備、設計段階での品質設計、工程改善、問題処理方法、記録管理の徹底と活用方法、生産管理方式などを業務に反映している。また、多くの日本人や日本の文化・習慣等に触れ日本人の勤勉さと日本に対する理解を深め、有意義な滞在であったとの意見が多かった。(2007.2.8 韓国で開催の評価会での発言)</p> <p>(3) 受入企業アンケート調査結果では、当事業の有効性や推進方法に肯定的意見が多く、今後も実習受入に積極的に対応したいとの意見が大多数であった。</p>	＜派遣企業＞	＜受入企業＞	＜派遣企業＞	＜受入企業＞	(1) (株) 瑞進CAM	(株) 日平トヤマ	(16) 韓国横河電機(株)	横河電機(株)	(2) (株) KPF	(株) 水野鉄工所	(17) 又永産業(株)	片山工業(株)	(3) 韓国大塚製薬(株)	大塚製薬(株) 佐賀工場	(18) (株)PULMUONE 第三豆腐工場	朝日食品工業(株)	(4) 眞永工業(株)	片山工業(株)	(19) 韓一金属工業(株)	(株) 川邑研究所	(5) (株) 宇進ALPHA	(株) アルファ	(20) (株) 宇進機電	(株) 東芝	(6) (株) 東亜Entec	三菱重工業(株)	(21) (株) 東亜ENG	和光技研工業(株)	(7) (株) 宇進産電	(株) 東芝	(22) 韓国教育放送公社	(株) 東通	(8) 韓国大塚製薬(株)	大塚製薬(株) 徳島工場	(23) SEOUL 東光(株)	東光(株)	(9) Hitachi High Technologies Korea	(株) 日立ハイテクノロジーズ	(24) 又永産業(株)	片山工業(株)	(10) 江南化成(株)	大日本化学工業(株) 堺	(25) (株) 協星社	マカテック・ボドロー(株)	(11) (株)PULMUONE 第二豆腐工場	朝日食品工業(株)	(26) 韓国ALPS(株)	アルプス電気(株)	(12) 愛敬化学(株)	大日本化学工業(株) 千葉	(27) 韓国OMRON電装(株)	オムロン飯田(株)	(13) Pulmuone Sprout(株)	サイキ食品(株)	(28) 東明重工業(株)	ナプテスコ(株)	(14) 大同HI-LEX(株)	(株) ハレックスポーション	(29) KODUCT(株)	武田産業(株)	(15) METROTECH(株)	(株) 神戸製鋼所	(30) アールエスコリア(株)
＜派遣企業＞	＜受入企業＞	＜派遣企業＞	＜受入企業＞																																																													
(1) (株) 瑞進CAM	(株) 日平トヤマ	(16) 韓国横河電機(株)	横河電機(株)																																																													
(2) (株) KPF	(株) 水野鉄工所	(17) 又永産業(株)	片山工業(株)																																																													
(3) 韓国大塚製薬(株)	大塚製薬(株) 佐賀工場	(18) (株)PULMUONE 第三豆腐工場	朝日食品工業(株)																																																													
(4) 眞永工業(株)	片山工業(株)	(19) 韓一金属工業(株)	(株) 川邑研究所																																																													
(5) (株) 宇進ALPHA	(株) アルファ	(20) (株) 宇進機電	(株) 東芝																																																													
(6) (株) 東亜Entec	三菱重工業(株)	(21) (株) 東亜ENG	和光技研工業(株)																																																													
(7) (株) 宇進産電	(株) 東芝	(22) 韓国教育放送公社	(株) 東通																																																													
(8) 韓国大塚製薬(株)	大塚製薬(株) 徳島工場	(23) SEOUL 東光(株)	東光(株)																																																													
(9) Hitachi High Technologies Korea	(株) 日立ハイテクノロジーズ	(24) 又永産業(株)	片山工業(株)																																																													
(10) 江南化成(株)	大日本化学工業(株) 堺	(25) (株) 協星社	マカテック・ボドロー(株)																																																													
(11) (株)PULMUONE 第二豆腐工場	朝日食品工業(株)	(26) 韓国ALPS(株)	アルプス電気(株)																																																													
(12) 愛敬化学(株)	大日本化学工業(株) 千葉	(27) 韓国OMRON電装(株)	オムロン飯田(株)																																																													
(13) Pulmuone Sprout(株)	サイキ食品(株)	(28) 東明重工業(株)	ナプテスコ(株)																																																													
(14) 大同HI-LEX(株)	(株) ハレックスポーション	(29) KODUCT(株)	武田産業(株)																																																													
(15) METROTECH(株)	(株) 神戸製鋼所	(30) アールエスコリア(株)	リンナイ精機(株)																																																													

2. 日韓自動車関連産業育成強化事業

事業名	(3) 技術普及事業 【共同事業】																																																																		
事業内容	<p>韓国の産業団地・地域全体の企業の育成を図る為に、生産性向上コンサルティングを過去実施して来た。今年度も全国より希望する企業を募集し、日本からの各技術分野の専門家10名を派遣して10社の企業の技術指導を実施した。本事業では各企業で指導した成果内容を普及させることを目的に、成果発表会を開催し、実施企業が5社の成果事例を発表した。</p>																																																																		
実施状況	<p>1. 技術指導 実施概要</p> <p>希望する企業の中から10社を選定し、10技術分野で延べ10週間実施した。</p> <p>実施期間：2006年5月～9月（1社当り5日、1週間で1社実施）</p> <p>(1) 1社に対し各5日の現場指導を実施。</p> <p>(2) 専門家が夫々その専門性に応じて、生産性向上全般、技術改善を指導。</p> <p>重点指導内容：①生産性向上の方法、②問題解決の手法、③機械設備の改善方法等</p> <table border="1" data-bbox="308 824 1482 1279"> <thead> <tr> <th></th> <th>分野/専門家</th> <th>実施日</th> <th>実施企業</th> <th>都市</th> <th>生産品目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>機械組立自動化/柴田力</td> <td>5/22～26</td> <td>INZI CONTROLS (株)</td> <td>始興</td> <td>自動車部品</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>油圧技術/中村吉男</td> <td>5/29～6/2</td> <td>又榮油圧 (株)</td> <td>仁川</td> <td>油圧シリンダー&ロッド</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>生産管理/金子四郎</td> <td>6/12～16</td> <td>(株) HAVIT 情報</td> <td>大田</td> <td>光部品(紫外線フィルター)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>機械加工/梅原敏靖</td> <td>6/26～30</td> <td>新進精密 (株)</td> <td>光州</td> <td>パワーステアリング</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>半導体製造/遠藤民夫</td> <td>7/3～7</td> <td>頭伸電子 (株)</td> <td>龍仁</td> <td>メモリーモジュール</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>電気・電子/山崎浩</td> <td>7/10～14</td> <td>POSTEC 電子 (株)</td> <td>梁山</td> <td>スイッチ&ボテンシオメータ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>溶接/西武史</td> <td>7/24～28</td> <td>東和 Entec (株)</td> <td>釜山</td> <td>船舶用熱交換機</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>メカトロクス/三好紀臣</td> <td>8/7～11</td> <td>新韓電機 (株)</td> <td>華城</td> <td>プレッシャースイッチ&サーモスタット</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>プレス金型/辻秀志</td> <td>8/21～25</td> <td>東具企業 (株)</td> <td>昌原</td> <td>プレス金型</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>射出成形/澁谷泰宏</td> <td>9/4～8</td> <td>建祐精工 (株)</td> <td>ソウル</td> <td>射出成形金型</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 成果発表会</p> <p>日時：2006年11月17日（金）10時～16時00分</p> <p>(1) 成果事例発表企業（5社）、発表テーマ、指導専門家</p> <p>1) POSTEC 電子 「ソノトランスセル生産適用結果」 (指導：山崎 浩 専門家)</p> <p>2) 新韓電機 「溶接不良改善と生産性向上」 (指導：三好紀臣 専門家)</p> <p>3) 東具企業 「プレス金型の原価節減と生産性向上」 (指導：辻 秀志 専門家)</p> <p>4) 建祐精工 「データベース活用と無人化を通じた生産性向上」 (指導：澁谷泰宏 専門家)</p> <p>5) 新進精密 「油圧部品の精密加工技術指導」 (指導：梅原敏靖 専門家)</p> <p>(2) 技術相談会</p> <p>短い時間ながら、5分野の専門家と相談を希望する10社との熱心な質疑がなされた。各企業の問題解決の方向を示した。</p> <p>3. 成果 等</p> <p>10社の技術指導とその中から選ばれた5社の成果事例の発表を通じて、技術普及させる当初の目的は十分に達成出来た。成果発表会には韓国企業40名が終日熱心に聴講した。</p> <p style="text-align: right;">事務局業務を(株)明幸フォーラムに委託</p>		分野/専門家	実施日	実施企業	都市	生産品目	1	機械組立自動化/柴田力	5/22～26	INZI CONTROLS (株)	始興	自動車部品	2	油圧技術/中村吉男	5/29～6/2	又榮油圧 (株)	仁川	油圧シリンダー&ロッド	3	生産管理/金子四郎	6/12～16	(株) HAVIT 情報	大田	光部品(紫外線フィルター)	4	機械加工/梅原敏靖	6/26～30	新進精密 (株)	光州	パワーステアリング	5	半導体製造/遠藤民夫	7/3～7	頭伸電子 (株)	龍仁	メモリーモジュール	6	電気・電子/山崎浩	7/10～14	POSTEC 電子 (株)	梁山	スイッチ&ボテンシオメータ	7	溶接/西武史	7/24～28	東和 Entec (株)	釜山	船舶用熱交換機	8	メカトロクス/三好紀臣	8/7～11	新韓電機 (株)	華城	プレッシャースイッチ&サーモスタット	9	プレス金型/辻秀志	8/21～25	東具企業 (株)	昌原	プレス金型	10	射出成形/澁谷泰宏	9/4～8	建祐精工 (株)	ソウル	射出成形金型
	分野/専門家	実施日	実施企業	都市	生産品目																																																														
1	機械組立自動化/柴田力	5/22～26	INZI CONTROLS (株)	始興	自動車部品																																																														
2	油圧技術/中村吉男	5/29～6/2	又榮油圧 (株)	仁川	油圧シリンダー&ロッド																																																														
3	生産管理/金子四郎	6/12～16	(株) HAVIT 情報	大田	光部品(紫外線フィルター)																																																														
4	機械加工/梅原敏靖	6/26～30	新進精密 (株)	光州	パワーステアリング																																																														
5	半導体製造/遠藤民夫	7/3～7	頭伸電子 (株)	龍仁	メモリーモジュール																																																														
6	電気・電子/山崎浩	7/10～14	POSTEC 電子 (株)	梁山	スイッチ&ボテンシオメータ																																																														
7	溶接/西武史	7/24～28	東和 Entec (株)	釜山	船舶用熱交換機																																																														
8	メカトロクス/三好紀臣	8/7～11	新韓電機 (株)	華城	プレッシャースイッチ&サーモスタット																																																														
9	プレス金型/辻秀志	8/21～25	東具企業 (株)	昌原	プレス金型																																																														
10	射出成形/澁谷泰宏	9/4～8	建祐精工 (株)	ソウル	射出成形金型																																																														

3. 調査・広報事業

事業名	(1) 委託調査 (d) ソウルジャパンクラブ(SJC)経営研究会支援																														
事業内容	<p>本事業は、調査・広報事業の一部として、既に韓国で生産・営業活動を営んでいる日系進出企業の現地経営の高度化を支援すべく実施するものである。</p> <p>1999年以降、韓国経営研究会の名の下に2種の研究会を計58回開催した。その結果、本研究会の意義を確認するとともに、実施内容・実施方法等改善への示唆を得ることができた。</p>																														
実施状況	<p>研究会の目的</p> <p>在韓日系企業における経営技術向上のための、経営ノウハウの交流促進、韓国産業・経済等に関する学習の場を提供する。</p> <p>2006年韓国経営研究会の内容：本研究会は次の2種類を実施した。</p> <p>1) 企業経営研究会</p> <table border="1" data-bbox="331 801 1474 1061"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>講師</th> <th>日時・場所</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回(通算24回) 「企業立地と企業経営」</td> <td>CJライオン 平佐副社長 アマダコリア 肱岡社長</td> <td>7月4日(火) 12:00~21:00 CJ Lion AMADA KOREA 現地視察(仁川)</td> <td>30名</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 経営研究セミナー</p> <table border="1" data-bbox="331 1131 1474 1733"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>講師</th> <th>日時・場所</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回(通算31回) 「日本型経営と韓国型経営」</td> <td>国立ソウル大学 国際大学院 金顕哲(キム・ヒョンチョル)教授</td> <td>4月5日(水) 16:00~18:00 ソウル新羅ホテル</td> <td>100名</td> </tr> <tr> <td>第2回(通算32回) 「韓国の人事、労務、05年の出来事と06年の展望」</td> <td>Glocal Consulting Group 都根佑代表理事</td> <td>4月25日(火) 16:00~18:00 SJC 会議室</td> <td>60名</td> </tr> <tr> <td>第3回(通算33回) 「組織診断を通じて見た日韓企業経営」</td> <td>Business Consultant Inc. 金日基事業部長</td> <td>6月8日(木) 16:00~18:00 SJC 会議室</td> <td>60名</td> </tr> <tr> <td>第4回(通算34回) 「2007年韓国経済の展望」</td> <td>韓国経済研究院 盧成泰(ノ・ソクテ)院長</td> <td>12月5日(火) 15:30~17:00 ソウル新羅ホテル</td> <td>100名</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">以上</p> <p style="text-align: right;">(株)野村総合研究所ソウル支店に事務局を委託</p>			テーマ	講師	日時・場所	参加人数	第1回(通算24回) 「企業立地と企業経営」	CJライオン 平佐副社長 アマダコリア 肱岡社長	7月4日(火) 12:00~21:00 CJ Lion AMADA KOREA 現地視察(仁川)	30名	テーマ	講師	日時・場所	参加人数	第1回(通算31回) 「日本型経営と韓国型経営」	国立ソウル大学 国際大学院 金顕哲(キム・ヒョンチョル)教授	4月5日(水) 16:00~18:00 ソウル新羅ホテル	100名	第2回(通算32回) 「韓国の人事、労務、05年の出来事と06年の展望」	Glocal Consulting Group 都根佑代表理事	4月25日(火) 16:00~18:00 SJC 会議室	60名	第3回(通算33回) 「組織診断を通じて見た日韓企業経営」	Business Consultant Inc. 金日基事業部長	6月8日(木) 16:00~18:00 SJC 会議室	60名	第4回(通算34回) 「2007年韓国経済の展望」	韓国経済研究院 盧成泰(ノ・ソクテ)院長	12月5日(火) 15:30~17:00 ソウル新羅ホテル	100名
テーマ	講師	日時・場所	参加人数																												
第1回(通算24回) 「企業立地と企業経営」	CJライオン 平佐副社長 アマダコリア 肱岡社長	7月4日(火) 12:00~21:00 CJ Lion AMADA KOREA 現地視察(仁川)	30名																												
テーマ	講師	日時・場所	参加人数																												
第1回(通算31回) 「日本型経営と韓国型経営」	国立ソウル大学 国際大学院 金顕哲(キム・ヒョンチョル)教授	4月5日(水) 16:00~18:00 ソウル新羅ホテル	100名																												
第2回(通算32回) 「韓国の人事、労務、05年の出来事と06年の展望」	Glocal Consulting Group 都根佑代表理事	4月25日(火) 16:00~18:00 SJC 会議室	60名																												
第3回(通算33回) 「組織診断を通じて見た日韓企業経営」	Business Consultant Inc. 金日基事業部長	6月8日(木) 16:00~18:00 SJC 会議室	60名																												
第4回(通算34回) 「2007年韓国経済の展望」	韓国経済研究院 盧成泰(ノ・ソクテ)院長	12月5日(火) 15:30~17:00 ソウル新羅ホテル	100名																												

3. 調査・広報事業

事業名	(2) 財団ホームページ充実化・パンフレット作成
事業内容	財団パンフレットの更新、既存のホームページの充実及び更新等を通じて、財団事業に関する情報をPRしていく。
実施状況	<p>日韓財団の「ホームページ (HP)」のより一層の充実を図り、随時新しい活動内容を情報開示すると共に、基幹データを整理した。</p> <p>財団の実績及び成果事例、各種事業報告書、決算書等もアップデートし、掲載した。</p> <p>また、商談会の案内をHPに掲載して参加企業を公募したり、各事業の終了時には、結果報告などタイムリーに掲載する等、財団事業活動のPRに貢献した。</p> <p>入札に関しては財団事業の運営事務局業務委託の案内、及び選定結果を掲載した。</p>

V. 日韓両財団「連絡協議会」及び「連絡協議会幹事会」の開催

1992年6月に日韓両国政府間で合意された「日韓貿易不均衡是正等のための具体的実践計画」の中で両国の「産業技術協力財団」が協力して業務を実施していくよう連絡協議会を設置することが定められており、その下部機関として幹事会を設け、必要により随時協議することとなっている。

1. 第13回連絡協議会は下記のとおり開催された。

日 時：2006年5月26日（金）

場 所：札幌市 ルネッサンスサッポロホテル

出席者：

（日本側）			（韓国側）		
委員長	瀬戸 雄三	理事長	委員長	趙錫來	理事長
委員	渡里杉一郎	副理事長	委員	姜信浩	理事
〃	秋山 富一	〃	〃	金容九	〃
〃	田崎 雅元	〃	〃	朴世英	〃
〃	飯島 英胤	〃	〃	金熙勇	〃
〃	成田 洋助	専務理事	〃	許南整	専務理事

朝食・意見交換

- (1) 経済環境の変化と対応について（特に日韓 FTA の早期締結に向けて）
- (2) 両国財団の今後の運営と事業協力方策について
- (3) その他

（なお、第14回の連絡協議会は2007年4月13日(金)韓国釜山にて開催された。）

2. 第14回連絡協議会幹事会は下記の通り開催された。

日 時：2006年6月8日（木）

場 所：当財団会議室

出席者：

（日本側）		
主 査	成田 洋助	日韓産業技術協力財団
委 員	山崎 弘	〃
〃	北林 均	〃
〃	讃井 善郎	〃
〃	三池 壽博	〃
〃	杉山 茂夫	〃

Observer	岡田 誠司	外務省 アジア大洋州局	日韓経済室長
	〃	河合 雪恵	〃 日韓経済室 外務事務官
	〃	伊集院健夫	経済産業省 通商政策局 北東アジア課 課長補佐
	〃	草薙 清子	〃 韓国・北朝鮮三係長

(韓国側)

代表委員	許 南 整	韓日産業・技術協力財団	専務理事
委 員	金 汝 種	韓日財団 企画管理チーム	チーム長／理事
	〃	宋 成 基	〃 日本研究センター 事務局長／理事
	〃	金 彰 彬	〃 産業技術チーム チーム長／部長
	〃	張 震 旭	〃 次長
	〃	金 瑋	韓日財団 企画管理チーム 次長
	〃	李 炳 國	〃 産業技術チーム 課長
Observer	徐 가 람	駐日大韓民国大使館	書記官
	〃	柳 東 鉉	外交通商部 東北亜通商課 二等書記官
	〃	鄭 進	中小企業振興公団 日本事務所 課長

議 題：

- ※2006年度共同事業推進状況説明
- ※2007年度共同事業を含む事業計画方針説明
- ※その他協議

3. 第14回連絡協議会幹事会実務者会議は下記の通り開催された。

日 時：2006年11月7日（火）事前全体会議
8日（水）事業単位分科会・全体会議

場 所：韓日財団 会議室

出席者：

(日本側)

責任幹事	成田 洋助	日韓産業技術協力財団
委 員	山崎 弘	〃
	〃	北林 均
	〃	讚井 善郎
	〃	三池 壽博
	〃	杉山 茂夫

(韓国側)

代表委員	許南整	韓日産業・技術協力財団	専務理事
委員	宋成基	韓日財団 日本研究センター	事務局長／理事
	金汝種	” 企画管理チーム	チーム長／理事
”	金彰彬	” 産業技術チーム	チーム長／部長
”	張震旭	”	次長
”	金瑋	韓日財団 企画管理チーム	次長
”	李光濟	” 産業技術チーム	次長
”	劉崇勳	” 企画管理チーム	課長
”	李炳國	” 産業技術チーム	課長

議 題：

事前全体会議

※2006年度共同事業推進現況説明

※2007年度両国財団事業推進方針説明

事業単位分科会

※2007年度共同事業協議

※その他事項

全体会議

※事業単位別協議事項報告

※その他事項

以 上

VI. 事務局人事

平成18年11月30日 成田洋助 専務理事を退任

12月 1日 武澤 泰 新 専務理事・事務局長に就任
(社)日韓経済協会 専務理事 兼任)

成田洋助 カウンセラーに就任 (前 専務理事)

以上

VII. 財 団 活 動 日 誌 抜 粋

月 日	事 項
平成18年	
4月 6日(木)	韓国科学財団 東京事務所の李美榮所長が挨拶のため来訪。(成田専務理事・山崎常務理事・北林部長が対応)
9日(日)	讚井部長が「技術普及事業」第一次事前調査のため韓国に出張。(15日まで)
16日(日)	山崎常務理事が「技術普及事業」第二次事前調査のため韓国に出張。(22日まで)
18日(火)	(財)石川県産業創出支援機構 産業振興部の尾井産業情報課長が事業の打合せのため来訪。(成田専務理事・三池部長が対応)
19日(水)	公認会計士の板垣氏に依る期末監査。(21日まで3日間)
5月 9日(火)	三池部長が「先進技術交流事業」応募技術者面接及び審議委員会出席のため(財)韓日産業・技術協力財団に出張。(13日まで)
11日(木)	中国経済産業局 産業部 産業振興課の大谷国際係長と坪原経済産業事務官が打合せのため来訪。(山崎常務理事が対応)
15日(月)	成田専務理事・山崎常務理事・杉山部長が「第38回日韓・韓日経済人会議」結団式に出席。〔於：日本経団連会館〕
17日(水)	成田専務理事・山崎常務理事・三池部長が「2006年度石川県・大邱広域市ビジネス商談会」出席のため金沢市に出張。(20日まで)
23日(火)	・九州経済産業局 国際部 国際事業課の柿川交流推進係長が事業の打合せのため来訪。(三池部長が対応) ・「第7回セミナー・商談会」入札説明会を実施。〔於：当財団会議室、山崎常務理事・讚井部長・大本主任が出席〕
25日(木)	・成田専務理事・山崎常務理事・杉山部長が「第38回日韓・韓日経済人会議」及び「第13回日韓・韓日両財団連絡協議会」に出席のため札幌市に出張。〔於：ルネッサンスサッポロホテル、27日まで〕 ・讚井部長が「技術普及事業」1社目 (INZI CONTROLS) 指導実施のため韓国・始興市に出張。(27日まで)
31日(水)	讚井部長が「技術普及事業」2社目 (又榮油圧) 指導実施のため韓国・仁川広域市に出張。(6月3日まで)
6月 1日(木)	成田専務理事・三池部長が「先進技術交流事業」実習生受入依頼のため(株)東通を訪問。
2日(金)	成田専務理事・北林部長が「品質管理セミナー」工場見学先 (茅ヶ崎市、(株)ULVAC) を訪問。
6日(火)	・成田専務理事が(社)日韓経済協会の第1回理事会に出席。〔於：協会会議室〕 ・(財)北九州国際技術協力協会の藤重常務と有田調整課長が「技術者専門セミナー」の業務打合せのため来訪。(杉山部長が対応)

月 日	事 項
6月 8日(木)	<p>・三池部長が「北陸・韓国経済交流会議第15回実務者検討会議」に出席のため福井市に出張。</p> <p>第14回連絡協議会幹事会を開催。(韓日財団との共同開催) 〔於：当財団会議室〕</p> <p>※2006年度共同事業推進状況説明 ※2007年度共同事業を含む事業計画方針説明 ※その他協議</p> <p>出席者</p> <p>(日本側) 成田専務理事、山崎常務理事、北林部長、讃井部長、三池部長、杉山部長の他、オブザーバーとして外務省 アジア大洋州局 日韓経済室の岡田室長・河合外務事務官、経済産業省 通商政策局 北東アジア課の伊集院課長補佐・草薙係長。</p> <p>(韓国側) 許南整専務理事、金汝種理事、宋成基理事、金彰彬チーム長、張震旭次長、金瑋次長、李炳國課長、オブザーバーとして駐日大韓民国大使館の徐가람書記官、外交通商部 東北亜通商課の柳東鉉二等書記官、中小企業振興公団 日本事務所の鄭進課長。</p>
13日(火)	<p>・成田専務理事が(社)日韓経済協会の通常会員総会に出席。〔於：経団連会館〕</p> <p>・北林部長が「品質管理セミナー」結団式(6月14日)出席のため韓国・ソウルに出張。(15日まで)</p>
15日(木)	<p>山崎常務理事が「技術普及事業」3社目(HAVIT 情報)指導実施のため韓国・大田に出張。(17日まで)</p>
20日(火)	<p>平成18年度第1回理事会、第1回評議員会及び第2回理事会を開催。 〔於：当財団会議室〕</p> <p>第1回理事会</p> <p>決議事項</p> <p>第1号議案 平成17年度事業報告(案)承認の件 第2号議案 平成17年度収支決算報告(案)承認の件 第3号議案 任期満了等に伴う評議員選出承認の件</p> <p>第1回評議員会</p> <p>決議事項</p> <p>第1号議案 任期満了等に伴う理事及び監事選任承認の件</p> <p>審議事項</p> <p>①平成18年度収支予算一部修正の件</p> <p>報告事項</p> <p>①平成17年度事業報告</p>

月 日	事 項
	<p>②平成17年度収支決算報告 ③新会計基準による平成18年度収支予算書</p> <p>第2回理事会 決議事項 第1号議案 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事互選(案)の件 第2号議案 平成18年度収支予算一部修正の件</p> <p>報告事項 ①新会計基準による平成18年度収支予算書</p>
6月21日(水)	22日に行われる「第6回日韓中小企業商談会」に出席する韓国企業21社が来日、東京ビッグサイトでの機械展示会を視察。(讃井部長同行)
22日(木)	「第6回日韓中小企業商談会」実施。〔於：品川プリンスホテル、成田専務理事・山崎常務理事・讃井部長・杉山部長が出席〕
23日(金)	「第6回日韓中小企業商談会」に参加した韓国企業21社が大田区優良中小企業工場見学(讃井部長同行)後、帰国。
25日(日)	<p>「品質管理セミナー」開講、30名の韓国人技術者を対象。 〔於：大磯プリンスホテル、7月8日まで〕</p> <p>成田専務理事・山崎常務理事が開講式及び歓迎会に出席。北林部長はセミナー期間中立会い。</p>
28日(水)	外務省及び経済産業省による立入検査。(29日まで)
29日(木)	讃井部長が「技術普及事業」4社目(新進精密)指導実施のため韓国・光州に出張。(7月1日まで)
7月 3日(月)	杉山部長が「技術者専門セミナー」オリエンテーション及び業務打合せのため韓国・ソウル、安山に出張。(5日まで)
5日(水)	山崎常務理事が「技術普及事業」5社目(頭伸電子)指導実施のため韓国・龍仁に出張。(8日まで)
7日(金)	<p>成田専務理事・北林部長が「品質管理セミナー」修了式及び送別会に出席。 〔於：大磯プリンスホテル〕</p> <p>30名の受講生(韓国人技術者)は8日に帰国。</p>
11日(火)	三池部長が「第13回九州・韓国経済交流会議」出席のため佐賀に出張。〔於：ホテルニューオータニ佐賀、13日まで〕
13日(木)	讃井部長が「技術普及事業」6社目(POSTEC 電子)指導実施のため韓国・梁山に出張。(15日まで)
14日(金)	<p>日本貿易振興機構(JETRO)ソウルセンターの林所長が新任挨拶のため来訪。 (成田専務理事・山崎常務理事・杉山部長が対応、協会武澤専務理事他も同席)</p>

月 日	事 項
7月24日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・「先進技術者育成セミナー」及び「先進技術交流事業」韓国中堅技術者30名入国、山崎常務理事・三池部長・梶山職員が開講式及び歓迎会に出席。 〔於：日本教育会館内〕
25日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・(財)韓日産業・技術協力財団の事業の「次世代経営者交流事業」訪日団受入れ、飯島理事長主催歓迎会開催。〔於：ホテルパシフィック、成田専務理事・北林部長・讃井部長・杉山部長・大本主任出席〕
31日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・成田専務理事が「技術普及事業」実施立会いと今後の協議及び韓国経営者との座談会開催のため韓国・釜山に出張。(28日まで) ・三池部長・梶山職員が「先進技術者育成セミナー」オリエンテーション実施。
8月10日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国中小企業振興公団 日本事務所の朴魯鍊 前所長 と梁海震 新所長 が交代挨拶のため来訪。 ・成田専務理事・杉山部長が「技術者専門セミナー」開講式出席のため北九州市に出張。〔於：千草ホテル、8月1日まで〕
23日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・讃井部長が「技術普及事業」8社目(新韓電機)指導実施のため韓国・華城市に出張。(12日まで) ・三池部長・梶山職員が「先進技術者育成セミナー」課外学習に立会いのため参加。
24日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 成田専務理事・三池部長・梶山職員が「先進技術者育成セミナー」日本語教育修了式に立会い。〔於：リフレフォーラム〕
24日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・三池部長・梶山職員が「先進技術交流事業」オリエンテーション実施。〔於：リフレフォーラム〕 ・山崎常務理事が「技術普及事業」9社目((株)東具企業)指導実施のため韓国・昌原市に出張。(26日まで)
25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 三池部長・梶山職員が「先進技術者育成セミナー」日本語課外体験学習実施のため江戸東京博物館、浅草等に。その後アジア文化会館での日韓交流会に出席。
30日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 三池部長が「日韓コンテンツ産業交流ミッション」参加のため韓国・ソウルに出張。(9月2日まで)
9月 1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 飯島理事長・成田専務理事が経済産業省の豊田通商政策局長と永塚通商交渉官を表敬訪問。(協会武澤専務理事同行)
7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 讃井部長が「技術普及事業」10社目(建祐精工)指導実施のため韓国・ソウルに出張。(9日まで)
8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 成田専務理事・杉山部長が「技術者専門セミナー」閉講式に出席のため北九州市に出張。〔於：北九州プリンスホテル、9日まで〕
26日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・成田専務理事・山崎常務理事が大韓貿易投資振興公社(KOTRA)主催の「2

月 日	事 項
9月27日(水)	<p>006 韓国部品調達商談会」に出席。〔於：ホテルニューオータニ〕</p> <p>・飯島理事長・成田専務理事が大韓貿易投資振興公社（KOTRA）主催の「韓国の美フェスティバル&レセプション」に出席。〔於：ホテルニューオータニ、協会武澤専務理事同行〕</p> <p>(社)韓国優良製品振興協会の奇秉泰顧問が来訪。(成田専務理事・山崎常務理事が対応)</p>
10月 3日(火)	<p>山崎常務理事が韓国大使館主催の開天節レセプションに出席。〔於：ホテルニューオータニ〕</p>
11日(水)	<p>三池部長が「北陸・韓国経済交流会議」第18回実行委員会に出席のため福井市に出張。〔於：福井ワシントンホテル〕</p>
18日(水)	<p>成田専務理事・三池部長が「第7回北陸・韓国経済交流会議」に出席のため福井市に出張。(20日まで)</p>
23日(月)	<p>板垣太栄三公認会計士に依る中間監査。(25日まで3日間)</p>
25日(水)	<p>北林部長が「理工系大学院生研究支援事業」現地説明会のため韓国・大田に出張。(27日まで)</p>
30日(月)	<p>成田専務理事・山崎常務理事・讃井部長・杉山部長が「第7回日韓中小企業セミナー・商談会」実施のため韓国・ソウルに出張。〔於：ロッテホテルソウル、11月2日まで〕</p>
11月 6日(月)	<p>成田専務理事が「第8回日韓・韓日産業貿易会議」及び「第14回連絡協議会幹事会実務者会議」に出席のため、韓国・ソウルに出張。(9日まで)</p>
7日(火)	<p>・山崎常務理事・北林部長・讃井部長・三池部長・杉山部長が「第14回連絡協議会幹事会実務者会議」に出席のため、韓国・ソウルに出張。(9日まで)</p> <p>・「第14回連絡協議会幹事会実務者会議」事前全体会議を開催。(韓日財団との共同開催)</p> <p>〔於：韓日財団会議室〕</p> <p>※2006年度共同事業推進現況説明</p> <p>※2007年度両国財団事業推進方針説明</p> <p>出席者</p> <p>(日本側) 成田専務理事、山崎常務理事、北林部長、讃井部長、三池部長、杉山部長。</p> <p>(韓国側) 許南整専務理事、宋成基理事、金汝種理事、金彰彬部長、張震旭次長、金瑋次長、李光濟次長、劉崇勳課長、李炳國課長。</p>
8日(水)	<p>「第14回連絡協議会幹事会実務者会議」事業単位分科会及び全体会議を開催。(韓日財団との共同開催)</p> <p>〔於：韓日財団会議室〕</p>

月 日	事 項
	事業単位分科会 ※2007年度共同事業協議 ※その他事項 全体会議 ※事業単位別協議事項報告 ※その他事項 出席者は日本側、韓国側共前日の事前全体会議と同じ。
11月10日(金)	成田専務理事・山崎常務理事・三池部長・梶山職員が「先進技術交流事業」報告会及び送別会に出席。〔於：日本教育会館内〕
11日(土)	「先進技術交流事業」実習生30名、韓国に帰国。(三池部長・梶山職員が成田空港まで見送りのため同行)
14日(火)	平成18年度第2回評議員会及び第3回理事会を開催。 〔於：当財団会議室〕 第2回評議員会 決議事項 第1号議案 理事選任承認の件 第3回理事会 決議事項 第1号議案 専務理事互選(案)の件 第2号議案 退任専務理事に対し退職慰労金贈呈の件
16日(木)	成田専務理事・山崎常務理事・讃井部長が「技術普及事業」成果発表会実施のため韓国・ソウルに出張。〔於：ロッテホテルソウル、18日まで〕
21日(火)	京都府 商工部の山下次長他1名が事業の打合せのため来訪。(成田専務理事・山崎常務理事・三池部長が対応)
27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・三池部長が「平成18年度韓国・ITコンテンツビジネス商談会 in 大邱」参加のため韓国・ソウル及び大邱に出張。(12月1日まで) ・成田専務理事・北林部長が「産業技術交流促進ミッション」セミナー〔於：品川プリンスホテル〕及び結団式に出席。 北林部長は12月1日までミッションに立会い。
30日(木)	成田専務理事・山崎常務理事・北林部長が「産業技術交流促進ミッション」交流会〔於：大田区産業プラザ〕及び懇親会〔於：大田区産業プラザ内〕に出席。
12月13日(水)	来年上映予定の日韓合作映画「あなたを忘れない」の三村プロデューサー、(株)ワイズジャパンの山川代表取締役及び特定非営利活動法人エルエスエイチアジア奨学会の寺井氏が映画PR依頼のため飯島理事長及び瀬戸理事を訪問。

月 日	事 項
12月21日(木)	(山崎常務理事同席) 中部経済産業局 地域経済部 国際課の中島課長と杉山課長補佐が事業の打合せのため来訪。(武澤専務理事・三池部長が対応)
22日(金)	北林部長が「産業技術交流促進ミッション」のお礼及びフォローのため(株)セプト・ワンを訪問。
28日(木)	仕事納め。
平成19年	
1月5日(金)	・仕事始め。 ・飯島理事長・武澤専務理事・成田カウンセラー・山崎常務理事が年始挨拶のため経済産業省及び外務省を訪問。引続き、武澤専務理事・成田カウンセラー・山崎常務理事が年始挨拶のため韓国中小企業振興公団 日本事務所、(社)韓国貿易協会及び(財)日韓文化交流基金を訪問。
1月9日(火)	北林部長が「理工系大学院生研究支援事業」研究生20名を成田空港に出迎え。
10日(水)	武澤専務理事・山崎常務理事・北林部長が「理工系大学院生研究支援事業」開講式に出席。北林部長はその後の歓迎会に出席。〔於：つくば二の宮ハウス〕
12日(金)	武澤専務理事・山崎常務理事が年始挨拶のためアサヒビール(株)及び川崎重工業(株)を訪問。(川崎重工業(株)訪問の際成田カウンセラー・三池部長も同行)
17日(水)	三池部長が「北陸・韓国経済交流会議」第18回実行委員会出席のため福井市に出張。〔於：福井ワシントンホテル〕
25日(木)	武澤専務理事・山崎常務理事が飯島理事長(協会会長)主催の財団・協会役員新春賀詞交換会に出席。〔於：綱町三井クラブ〕
30日(火)	近畿経済産業局 通商部の森畑国際化調整企画官と高木国際事業担当参事官が事業の打合せのため来訪。(武澤専務理事・山崎常務理事・三池部長が対応)
2月6日(火)	武澤専務理事・山崎常務理事が大韓貿易投資振興公社(KOTRA)の仁川広域市投資説明会に出席。〔於：帝国ホテル〕
7日(水)	三池部長が「先進技術交流事業」評価会に出席のため韓国・ソウルに出張。(9日まで)
14日(水)	飯島理事長・武澤専務理事・山崎常務理事・杉山部長が駐日本国大韓民国大使館の羅鍾一特命全権大使の送別会に出席。〔於：綱町三井クラブ〕
15日(木)	武澤専務理事・成田カウンセラー・山崎常務理事・杉山部長が来年度事業の打合せのため外務省を訪問。
16日(金)	武澤専務理事・成田カウンセラー・山崎常務理事・北林部長が「理工系大学院生研究支援事業」修了式及び送別会に出席。〔於：ホテルグランド東雲(つくば市)〕

月 日	事 項
2月26日(月)	山崎常務理事が(社)日韓経済協会の政策委員会に出席、飯島理事長・武澤専務理事・山崎常務理事が大垣精工(株)の上田代表取締役社長と打合せ。〔於：経団連会館〕
3月 1日(木)	武澤専務理事・山崎常務理事が打合せのため経済産業省を訪問。
5日(月)	九州経済産業局 国際部の大串国際事業課長が打合せのため来訪。(武澤専務理事・成田カウンセラー・山崎常務理事・三池部長が対応)
13日(火)	「第8・9回日韓中小企業商談会」入札説明会を実施。〔於：当財団会議室、山崎常務理事・讃井部長が出席〕
15日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年度「技術普及事業」入札説明会を実施。〔於：当財団会議室、武澤専務理事・山崎常務理事・讃井部長・大本主任が出席〕 ・2007年度「品質管理セミナー」入札説明会を実施。〔於：当財団会議室、山崎常務理事・北林部長・大本主任が出席〕
20日(火)	武澤専務理事・成田カウンセラー・北林部長が打合せのため(財)北九州国際技術協力協会(KITA)(北九州市)を訪問。(21日まで)
23日(金)	武澤専務理事・山崎常務理事が打合せのため経済産業省を訪問。
27日(火)	<p>平成18年度第3回評議員会及び第4回理事会を開催。</p> <p>〔於：当財団会議室〕</p> <p>第3回評議員会</p> <p>決議事項</p> <p>第1号議案 監事選任承認の件</p> <p>審議事項</p> <p>①平成19年度事業計画(案)の件</p> <p>②平成19年度収支予算(案)の件</p> <p>第4回理事会</p> <p>決議事項</p> <p>第1号議案 評議員選出承認の件</p> <p>第2号議案 平成19年度事業計画(案)承認の件</p> <p>第3号議案 平成19年度収支予算(案)承認の件</p>
29日(木)	飯島理事長・武澤専務理事・山崎常務理事が挨拶のため駐日本国大韓民国 柳明桓特命全権大使を訪問。(協会 秋山常務理事同行)

以 上